

学校法人 三室戸学園

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学の
現状と課題

－平成 25 年度・26 年度－

(2013・2014)

〔自己点検・自己評価報告書〕 第 8 号

はじめに

少子化の進展により大学は全入時代を迎え、大学間競争は益々激化し私立学校を取り巻く環境は年々厳しさを増している。平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災は、我が国の経済や国民の生活に多大な損失を与えるとともに、学生・生徒の進学にも大きな影響を与えた。経済の復興が叫ばれているが、いまだ時を要する状況にある。

学園は創設以来「音楽芸術研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格の形成を目途とする」ことを建学の精神・理念として掲げ、「一貫教育の実践」「少人数制教育」「国際化の推進」「地域社会との交流」という 4 つの教育方針の下に、小規模大学の特色を活かし、学生生徒それぞれの思いとニーズをしっかりと受け止め、入口から出口まで、個に応じた教育・指導等を実践している。

また、健全かつ安定した教育や学校運営のために、学生の確保に全力を挙げて取り組んでいるが、少子化等の影響も大きく、大学においては平成 25、26 両年度において定員割れを起すという非常に厳しい状況であった。しかし短期大学については、平成 24 年度に実施した、社会人等を視野に入れた新専攻の設置やカリキュラムの見直し、学費改定、長期履修制度の活用等、総合的な教育改革を遂行した結果、入学者は顕著に増加し、平成 27 年度入学者選抜試験の結果、定員を充足する入学者数を達成する見込みである。

日本の音楽大学の在り方は、現在重大な局面を迎えていると言える。社会状況を的確に把握し、本学の持つ諸要素を冷静に見つめながら迅速に対処方法を立案し、実行に移すことが求められている。さまざまな課題に対して全教職員が危機感を持って取り組むとともに、理事長・学長のリーダーシップの下に教育改革の推進を図っていくことが必要である。

この観点から本報告書においては、まずこの教育改革について平成 25 年度、平成 26 年度の進展状況とその課題をまとめることとした。また、本学が継続的に行っている社会連携およびキャリア支援について、その現状と課題の分析に引き続き取り組むこととした。

自己点検・自己評価
特別検討委員会
委員長 三室戸東光

◇◇◇◇◇◇◇◇ 目次 ◇◇◇◇◇◇◇◇

今回の自己点検・自己評価の方針	(P. 3)
I 教育改革の推進	(P. 3)
II 社会連携	(P. 6)
III キャリア支援	(P. 11)
今後取り組むべき事項	(P. 16)

今回の自己点検・自己評価の方針

本報告書は、平成 25 年度から平成 26 年度までの学校法人三室戸学園東邦音楽大学・東邦音楽短期大学の現状と課題をまとめたものである。

平成 26 年度、東邦音楽大学は文部科学大臣が認証する公益財団法人日本高等教育評価機構による機関別認証評価(第三者評価)を受審し、平成 20 年に続き、平成 27 年 3 月 10 日付で 2 回目の大学評価基準を満たしていると認定された。また東邦音楽短期大学は、文部科学大臣が認証する財団法人短期大学基準協会により、平成 23(2011)年 3 月 24 日短期大学評価基準を満たしていると認定され、平成 28 年度には 2 回目の認証評価を受審する予定である。

このように、本報告書が扱う期間は大学と短期大学の認証評価受審の中間に位置していることから、これまでの本学の教育改革と学修支援への取り組み状況および課題を中心として、その推移に着目しながら記述することとした。

I 教育改革の推進 平成 25 年度～平成 26 年度

〔現状の説明および改善点〕

本学では、世界で通用する音楽教育、いわゆる「世界基準の音楽教育」として、国内外で活躍できる音楽家・音楽人を育てるとともに、社会で活躍できる人材を養成するため ONE to ONE の教育システムによる教育活動を行っている。

社会や国民の大学に対するニーズや期待に応えるため、中央教育審議会答申等を踏まえて、学長のリーダーシップの下に大学及び短期大学について、これまで以上に教育改革を推進することとしている。

平成 26 年度には、学長を長とした「教育改革推進会議」及び「教学 I R 推進委員会」を新たに設置したほか、FD についてもこれまでの FD プロジェクトを充実させ新たに「FD 委員会」を設置するなど、大学の教育方針、教育課程、教育内容・方法等の改善について恒常的に取り組むこととした。

また、学生に対して教育内容・方法を一層明確化するとともに、教育に対する責任を果たすため、「シラバス作成ガイド」を作成し、教員に対して授業の準備学習に必要な時間等シラバスの必要性の認識向上と記載内容の第三者チェック機能を確立した。

以下、平成 25 年度から平成 26 年度にかけて行われた教育改革、カリキュラム改善の具体例を示す。これらの新しい制度が実効性を持って確実に履行され、現状分析のもとにさらなる改善を重ねていく PDCA サイクルを確立することが必要である。

1. セメスター制、GPA 制度、CAP 制の導入

学生の修学時間の少なさ等が指摘されている中、本学においては学生が主体的に学修に取り組み集中して履修し評価されることにより、より学修効果が高まるようにするとともに、入学後の多様な学修計画に即した科目履修に対応できることとするため、平成 25 年度の試行的実施を経て平成 26 年度からは完全セメスター制（半期完結型履修制度）を導入した。

また、平成 26 年度からは GPA 制度や CAP 制を導入するとともに、シラバスの在り方についても見直しを行った。GPA 制度については、平成 26 年度は卒業判定、卒業代表演奏者選考等の基礎資料としての活用を図ったが、今後は更なる有効的活用について検討し実行に移すこととしている。

なお、学生の学修時間の実態について把握するために、従来から実施している「授業・レッスン欠席調査」に加えて、新たに「学修時間調査」を実施した。この結果については、今後の学生の教育指導等に活用することとした。

2. 実技レッスン時間の延長

平成 25 年度より、実技レッスンの時間について見直しを行った。大学・短期大学の 1・2 年次生は、従前の 40 分から 45 分間への延長を実施した。

また、平成 26 年度には学生の練習環境のさらなる改善を図るため、授業時間後の学内における実技練習可能時間について見直しを行うこととした。従前学内での練習時間は 7:30～19:30（土曜日は 19:00）であったが、これを 7:30～21:00（土曜日は 20:00）とした。併せてスクールバスの運行時間も拡大し改善を図った。

3. クラス担任制「東邦スタンダード」による教育指導体制の充実

社会構造の急激な変化とともに、大学等の入試についても多様な方法が取り入れられるようになり、入学者の質の変化や目的意識の希薄化等が見られ、それに伴う学生生活上の問題も複雑且つ多岐にわたっている。本学では、教務部長、学生部長を中心として、学生相談室、カウンセラー室等の担当部門だけではなく全学組織をあげて対応するとともに、音楽大学の特色である実技科目の個人指導の際においても、学生からの相談に随時対応するなど組織体では補えない個別の問題についても常に相談出来る体制をとっている。

これに加えて本学では、音楽大学又は音楽短期大学の学生として、入学してからの修学内容及び方法から卒業に当たっての社会人としての考え方、卒業後の進路の在り方等、いわゆる入口から出口までを網羅し総合的に学ぶ科目として、平成 24 年度より全学年必修科目「東邦スタンダード」を開講した。この実施に当たっては、大学においては 1 年から 4 年、短期大学においては 1 年から 2 年まで全て音楽専門の教員によるクラス担任を配置し、各クラス担任が中心となって「東邦スタンダード」を運営しながら、専攻を超えた指導体制の下に実効性のあるよりきめの細かい指導・助言等を行う体制を整備している。平成 25、26 年度においてもこの「東邦スタンダード」を軸としたクラス担任制は、その実践

結果を踏まえてカリキュラム上の改良を重ねるとともに、クラス担任の教員は教員研修会および自主研究会を通じ継続して指導力の向上に取り組んでいる。

4. 「演奏家コース」「教職特設コース」の設置

平成 26 年度より大学に「演奏家コース」と「教職特設コース」という将来の目的を明確にした学生のニーズにあった二つのコースを設置した。

「演奏家コース」は、将来演奏家を目指し、また海外留学することを目指す学生のために必要なカリキュラムを設定するとともに、ウィーン研修を各学年 2 回（4 年間で 8 回）実施するなど内容の濃いコースとなっている。

また、「教職特設コース」は、中・高等学校等の音楽教員として地域の中核として活躍することを志す学生のために、特に教職に関する科目、教育現場、インターシップ等について充実を図ったコースとなっている。

〔平成 26 年度在籍者〕

- 1) 演奏家コース 3 名（ピアノ専攻 2 名 声楽専攻 1 名）
- 2) 教職特設コース 7 名

5. 社会人等を対象とした長期履修制度

「長期履修制度」は、職業を有しているなどの社会人入学者個々の実情に対応し、修業年限を超えた一定の期間にわたって計画的に教育課程を履修して卒業するという制度である。

本学では、これまで修学を希望する社会人や高齢者等を大学及び短期大学に積極的に受け入れてきているが、短期大学についてより一層社会人の修学ニーズに応えていくために、平成 25 年度より学費や履修方法等について大幅な見直しを行った。

この結果、社会人の入学希望者は増大し、平成 25 年度の短期大学入学試験においては 9 名の社会人が合格、そのうち 8 名が長期履修希望者（3 年履修 2 名、4 年履修 6 名）であった。平成 26 年度の短期大学入学試験においては 5 名の社会人が合格し、いずれも長期履修希望者（3 年履修 1 名、4 年履修 4 名）であった。なお、平成 27 年度の社会人入学予定者はさらに増加し、19 名を数えている。

〔社会人入学生の状況〕

年 度	社会人学生在学者数	左のうち、長期履修者数
平成 25 年度	15 人	10 人
平成 26 年度	17 人	16 人

II 社会連携 平成 25 年度～平成 26 年度

〔現状の説明および改善点〕

1. 自治体との連携協定

本学は平成 19 年度より文京区との間で、その相互協力に関して《学校法人三室戸学園東邦音楽大学と文京区との相互協力に関する協定》を締結している。これに基づき「公益財団法人 文京アカデミー」の評議員に本学教授がメンバーに加わっている。音楽大学としての特色を生かして、文京区内の文化活動「シビックコンサート」「文の京カレッジコンサート」等、多くの文化的行事に参加している。

また本学は同年度より、川越市と市内 4 大学との間で市との相互の発展を目指して《川越市と市内大学との連携に関する基本協定》を締結している。これに基づき川越市総合計画審議会に本学准教授、「川越市文化芸術振興計画議会」に本学教授がメンバーに加わり、音楽大学としての特色を生かして川越市内の文化活動「AMF」「2 音大コンサート」「南古谷ウインドオーケストラ」等、多くの文化的行事に参加している。

また、平成 22 年度には埼玉県ふじみ野市と東邦音楽大学との間で、様々な分野において相互に連携協力することにより、両者の活動の充実を図るとともに、地域社会の発展や地域の人材の育成に資することを目的として《ふじみ野市と東邦音楽大学との包括的な連携協力に関する協定》を締結した。これに基づき本学職員が、平成 26 年 9 月まで「ふじみ野市行政評価委員会」の外部委員をつとめている。また、平成 27 年度よりふじみ野市教育委員会と東邦音楽大学との間で、教育の連携に関する協議を進めていく予定である。

2. 地域の音楽活動との連携

本学川越キャンパスが立地する埼玉県川越市南古谷地域は、平成 26 年現在約 9,600 世帯、人口 24 万人と、地方都市並みの人口規模を有している。農村地域でありながら人口が増加傾向にあることも特筆される。南古谷地域のみで市立小学校 2 校・市立中学校 3 校があり、特に小学校においては両校合わせて約 1,800 人もの児童が通学している。また、この地域には 27 の自治会があり、連合して南古谷自治会長会(川越市南古谷支会)として地域活動を行っている。

この川越市南古谷地区と東邦音楽大学が連携し、地域の新しい文化を育てていくため、また、地域の青少年育成のため、地域内の南古谷中学校・東中学校・砂中学校の吹奏楽部員を中心に、南古谷ウインドオーケストラが平成 17 年 9 月に結成された。

最初は 60 名ほどのメンバーでスタートしたこの楽団は、地域住民や高校生、東邦第二高等学校、高階中学校の生徒も加わり、平成 26 年には約 150 名の団員を擁する川越市を代表する文化芸術団体に成長している。

その組織は規約に則り下記のように定めている。

楽団長 1名 川越市自治会連合会南古谷支会(平成26年度は川越市自治会連合会副会長兼南古谷支会長が就任)

副楽団長 2名 川越市自治会連合会南古谷支会(平成26年度は空席)、東邦音楽大学(現在は東邦音楽大学川越統括が就任)

事務教長 1名 川越市教育委員会南古谷公民館長

マネージャー 2名 東邦音楽大学演奏室職員

指揮者 1名 東邦音楽大学 教職員(平成26年度は東邦音楽大学大学院教授が就任)

副指揮者 数名 東邦音楽大学及び附属東邦第二高等学校教職員

講師 20名程 東邦音楽大学学生(各パート等指導)

顧問 数名 地域中学校校長

楽団の運営は「川越市自治会連合会南古谷支会」「東邦音楽大学」「東邦音楽大学学生」が中心となり、支援は「南古谷地区子どもサポート委員会」「青少年を育てる南古谷地区会議」「楽団員の保護者」「各学校の代表者」等が行い、楽器の運搬等支援を行っている。

演奏会活動としては、毎年定期的に行われる「New Year Concert in 南古谷」「東邦祭」「大学 Big Band Jazz Festa in 川越」「南古谷ウインドオーケストラ定期演奏会」等のほか、「第21回全国生涯学習フェスティバル(まなびピア埼玉2009)」「全国自治会連合会埼玉県川越大会」「埼玉県人権擁護委員会大会」等、埼玉県・川越市等の行事に多数参加している。

これらの活動が評価され、平成26年10月25日、本楽団は埼玉県県民生活部文化振興課からの推薦を受け“優れた教育活動を実践している団体”として埼玉県知事より『埼玉・教育ふれあい賞』を受賞した。

川越市南古谷地区との連携は多岐に渡るが、上記の他に「ニューイヤーコンサート in 南古谷」は規模の大きなイベントの一つである。これは「みどりと音楽あふれる笑顔の南古谷」をキャッチフレーズに、地域の活性化及び青少年の育成を目的として平成17年1月より毎年開催されている。「ニューイヤーコンサート in 南古谷」は毎年1月に行われ、平成25年度、平成26年度は地区内の小学校2校、中学校3校、高校3校と本学、そして地域の音楽サークルも合わせて19の団体が参加した。本学は「南古谷自治会長会」「青少年を育てる南古谷地区会議」との連携により、地域に根差す音楽大学として、地域の街づくりに積極的に取り組んでおり、このコンサートも本学に対する地域住民への関心を高めることに寄与している。

AMF「アマチュア・ミュージックフェスティバル」は、平成22年に川越市の活性化、文化振興を目的として、川越ロータリークラブ等関係者、川越市、東邦音楽大学の三者によって結成された。本学は、学生の地域貢献の発表の場所として、また、地域貢献としてこれに積極的に参加することとし、本学学長が副会長に、教務部長、川越統括が理事として就任している。

翌平成23年には川越市が『川越市文化芸術振興計画』を発表し、このAMFをより積極的に推し進める運びとなり、同年「大学ビッグバンド Jazz Festival in 川越」が川越市民会館大ホールにて開催、また、「AMF ジャーナル」(年2回の季刊誌)を発行、市内の随所に置き AMF の活動の啓蒙を行っている。

これらの活動が評価され、東邦音楽大学は平成 24 年(2012 年)、国際ソロプチミストより《シグマソサエティ》の認証を受けた。全国でも認証大学は数少なく、埼玉県では平成 26 年度現在本学のみ、また音楽大学としては全国で唯一の認証となっている。

文京キャンパス至近にある東京都立大塚病院において、同病院主催による「院内ミニコンサート」がほぼ毎月開催されている。このコンサートは、同病院と本学園との連携によって運営され、本学園の中学から大学までの生徒、学生が出演して 20 年来継続して行われている。平成 26 年度末で 225 回を数えるこのコンサートは同病院と本学の恒例行事として完全に定着し、同病院の通院・入院患者、近隣の音楽愛好者に広く親しまれていると同時に、本学学生にとって、その学修成果の発表と社会貢献を同時に体験できる貴重な機会となっている。

平成 25 年度、平成 26 年度の開催実績は以下の通りである。

《平成 25 年度》

- ・平成 25 年 5 月 23 日 第 208 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院
- ・平成 25 年 6 月 20 日 第 209 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院
- ・平成 25 年 7 月 25 日 第 210 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院
- ・平成 25 年 9 月 26 日 第 211 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院
- ・平成 25 年 10 月 24 日 第 212 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院
- ・平成 25 年 11 月 14 日 第 213 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院
- ・平成 25 年 12 月 12 日 第 214 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院
- ・平成 26 年 2 月 27 日 第 215 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院
- ・平成 26 年 3 月 19 日 第 216 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院

《平成 26 年度》

- ・平成 26 年 5 月 22 日 第 217 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院
- ・平成 26 年 6 月 19 日 第 218 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院
- ・平成 26 年 7 月 24 日 第 219 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院
- ・平成 26 年 9 月 25 日 第 220 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院
- ・平成 26 年 10 月 30 日 第 221 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院
- ・平成 26 年 11 月 20 日 第 222 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院
- ・平成 26 年 12 月 18 日 第 223 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院
- ・平成 27 年 2 月 26 日 第 224 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院
- ・平成 27 年 3 月 19 日 第 225 回大塚病院院内ミニコンサート 主催：東京都立大塚病院

3. 管打楽器実技講習会

埼玉県教育委員会、埼玉県吹奏楽連盟等の後援を得て、中学校、高等学校における吹奏楽講習会を年に数回開催している。

中学校、高等学校のクラブ活動等では、各学校の限られた教員による指導が主となるため、すべての楽器に対して専門的な指導を行うのは大変困難であり、クラブ内で先輩から

後輩への伝達により各楽器をマスターしているのが現状だと思われる。

そこで、地域に根差す音楽大学としての存在意義を高める行動のひとつとして、正統な奏法での演奏についてアドバイスする機会を積極的に提供している。指導には本学教員、研究員、学生があたり、当日の案内誘導も本学事務職員と管弦打楽器専攻学生が共同で行っている。

この講習会に対するニーズは非常に高く、平成 26 年度においては受付開始後 2 時間ほどで 1,200 名を超える申し込みがあった。先着順に受け入れたものの、本学で対応可能な規模が 800 名程度であるため多くの方々の申し込みをお引き受けできない状況である。地域における音楽活動と指導へのニーズの高まりに応える体制作りが課題となっている。

なおこの講習会は、本学学生が音楽講習会の運営と指導に対して、アクティブラーニング的に取り組む場としても意義のあるものとなっている。将来的には、これを本学の学修課程として整備し単位化することも検討している。

4. 日本管弦打楽器ソロ・コンテスト

全国の中学生・高校生の個人演奏レベルの向上、及び管弦打楽器の普及啓発を図る目的で、本学川越キャンパスを会場として「日本管弦打楽器ソロ・コンテスト」を開催している。

文部科学省・埼玉県・埼玉県教育委員会・川越市・ふじみ野市・全日本吹奏楽連盟・全日本高等学校オーケストラ連盟・埼玉県吹奏楽連盟・読売日本交響楽団・読売新聞・朝日新聞の後援を得ており、「文部科学大臣賞」「埼玉県知事賞」「埼玉県教育長賞」「東邦音楽大学学長賞」「読売日本交響楽団賞」「川越市長賞」が授与される等、埼玉県のみならず、我国の音楽文化に大きく寄与する行事に発展している。

コンテストは、参加要項の公示から受賞記念演奏会まで約 8 ヶ月にわたって運営され、その審査は本学教授・著名な演奏家・著名な音楽教師があたっている。

また、当日の運営には本学事務職員および管弦打楽器専攻学生が当たり、本学学生が音楽イベント運営にアクティブラーニング的に取り組む場としても意義のあるものとなっている。将来的には、これを本学の学修課程として整備し単位化することも検討している。

5. その他の社会連携・地域貢献

本学における社会連携はキャンパスの立地する東京都文京区および埼玉県川越市が主な舞台となっているが、それにとどまらず様々な地域において社会連携活動を推進しており、地域の音楽文化発展に貢献している。

平成 26 年度に実施した活動のうち、主なものを以下に記す。

- ・平成 26 年 5 月 14 日 平成 26 年度水曜学級開校式 主催：富士見市立鶴瀬西交流センター【埼玉・富士見市】
- ・平成 26 年 5 月 17 日 川越市立富士見中学校 昭和 30 年卒業同窓会 主催：同窓会【埼玉】

- ・平成 26 年 5 月 30 日 埼玉川越総合地方卸売市場開場 20 周年記念祝賀会 主催：川越総合卸売市場【埼玉】
- ・平成 26 年 6 月 22 日 音楽大学フェスティバルコンサート 主催：ヤマハ株式会社【東京】
- ・平成 26 年 7 月 8 日 小さな子供のためのコンサート 主催：富士見市子ども未来部保育課等【埼玉・富士見市】
- ・平成 26 年 7 月 8 日 愛和病院『8 の日コンサート』 主催：医療法人愛和会 愛和病院【埼玉】
- ・平成 26 年 7 月 20 日 ソヨカふじみ野(シュッパ°ンガ°モール) 演奏会 主催：(有)エスアンドエム【埼玉】
- ・平成 26 年 7 月 24 日 KDDI 研究所依頼演奏 主催：(株)KDDI 研究所総務部【埼玉】
- ・平成 26 年 8 月 2 日 愛の家保育園夕涼み会 主催：社会福祉法人愛の家保育園【東京】
- ・平成 26 年 8 月 8 日 志賀高原カレッジコンサート 主催：須賀高原カレッジコンサート実行委員会(山之内町)【長野・山ノ内町】
- ・平成 26 年 8 月 8 日 愛和病院『8 の日コンサート』 主催：医療法人愛和会 愛和病院【埼玉】
- ・平成 26 年 9 月 8 日 愛和病院『8 の日コンサート』 主催：医療法人愛和会 愛和病院【埼玉】
- ・平成 26 年 9 月 14 日 リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2014 川越 主催：リレー・フォー・ライフ・ジャパン川越実行委員会【埼玉】
- ・平成 26 年 9 月 24 日 茨城県立牛久栄進高等学校芸術鑑賞会 主催：茨城県立牛久栄進高等学校【茨城】
- ・平成 26 年 10 月 11 日 真寿園イベント演奏 主催：介護老人福祉施設 真寿園【埼玉】
- ・平成 26 年 10 月 31 日 交通監視員表彰式 主催：埼玉県警備業協会【埼玉】
- ・平成 26 年 11 月 11 日 警備員表彰式 主催：埼玉県警備業協会【埼玉】
- ・平成 26 年 11 月 17 日 愛和オープンフェスタ 40 周年 主催：医療法人愛和会 愛和病院【埼玉】
- ・平成 26 年 11 月 17 日 富士見市中学校音楽会演奏会
(市内全中学校参加＝勝瀬中・東中・富士見台中・本郷中・西中・水谷中) 主催：富士見市教育研究会音楽部【埼玉・富士見市教育】
- ・平成 26 年 12 月 7 日 音楽大学オーケストラ・フェスティバル 主催：音楽大学オーケストラ・フェスティバル実行委員会【東京】
- ・平成 26 年 12 月 12 日 小江戸探求会主催ミニコンサート 主催：子江戸探求会【埼玉】
- ・平成 26 年 12 月 12 日 小江戸探求会主催ミニコンサート 主催：子江戸探求会【埼玉】
- ・平成 27 年 1 月 19 日 賀詞交換会 主催：埼玉県警備業協会【埼玉】
- ・平成 27 年 2 月 4 日 川口市立中学校卒業生就職者壮行会 主催：川口市教育委員会【埼玉・川口市】
- ・平成 27 年 3 月 28 日・29 日 音楽大学フェスティバルオーケストラ 主催：音楽大学オーケストラ・フェスティバル実行委員会【東京】

Ⅲ キャリア支援 平成 25 年度～平成 26 年度

〔現状の説明および改善点〕

学生の卒業後の進路・就職についての支援を目的として、クラス担任制をベースに、担任を担当する教員を中心に 15 名の教員によるキャリア支援委員会を組織している。年間 2 回の委員会実施を基本に就職状況の把握分析、インターンシップ推進を通じて社会変化の中での学生進路相談のあり方等の議論を行っている。

平成 23 年度より、大学 2・3 年生、短大 1 年生を対象に、就職のための社会性及びコミュニケーション能力の強化を目的とする教科「キャリアデザイン」を選択科目としてスタートさせた。24 年度よりキャリア支援委員会のクラス担任教員によるキャリア形成のための基礎教科「東邦スタンダード」を必須科目として全学年においてスタートさせた。大学においては上記「キャリアデザイン」を 2・3 年生「東邦スタンダード」内に取り込み内容充実を図っている。短大においては短期間での実績づくりを意識し、「東邦スタンダード」「キャリアデザイン」を独立教科とし、必須科目として継続実施している。

上記キャリア支援委員会と共に、進路・就職についての具体的支援を提供する組織として専任職員常駐によるキャリア支援センターを設置している。現在、川越・文京キャンパスに各 1 室、学生がいつでも自由に入出りできる部屋を設置、キャリアカウンセラーを含む職員 3 名が少人数制ならではの個別相談を中心に学生対応にあたっている。

キャリア支援センターでは学生向け求人情報のファイリングと専用掲示板での告知とともに、就職活動支援のために年間を通じ就職ガイダンス・セミナー・採用説明会等を実施しており、学生むけの参考書籍の設置、貸出し、情報収集のためのパソコン設置も行っている。

1. キャリア支援センター活用状況

(表 1) 学生相談件数

年度	年間相談件数			(参考) 学生在籍数
	大学	短大	合計	
25 年度	1, 348	305	1, 653	422
26 年度	1, 137	554	1, 691	400

(表 2) 「就職ガイダンス」「セミナー」「採用説明会」等の実施状況

時期	内容	対象
4 月	キャリア支援オリエンテーション	全学年
5 月	インターンシップ申込み受付 カワイ音楽教室講師採用説明会	大学 2・3 年、短大 1・2 年 全学年
6 月	100 社求人フェア	大学 4 年
7 月	就活スタートアップセミナー マナーセミナー 自衛隊音楽隊採用説明会	大学 3 年、短大 1 年 全学年 全学年

10月	ヤマハ大人の音楽レッスン講師採用説明会	全学年
11月	自己分析と適職診断テスト 埼玉県教員採用説明会	大学3年、短大1年 大学3年
12月	ハローワーク個別相談会 筆記試験対策セミナー	大学4年 大学3年、短大1年
1月	応募書類の書き方 面接対策・社会人としてのマナーセミナー ヤマハ音楽教室講師採用説明会	大学3年、短大1年 大学3年、短大1年 全学年

2. インターンシップの推進

平成16年度よりスタートし、夏休みを利用して行政機関・企業において2週間の就業体験を実施している。平成18年度からは単位制度化により、事前講習から事後報告会まで所定の条件を満たした実習修了者には2単位認定とし、卒業要件単位の一部として認めることで積極的な活用推進を行っている。

秋にはキャリア支援委員会主催による「インターンシップ発表会」として、教員・学生たちに向けてプレゼンテーショントレーニングを兼ねた報告会を実施している。

(表3) インターンシップ実施状況

《平成25年度》

受入先	研修部署	参加学年	研修期間
川越市役所	政策企画課	大学3年生	8/5~16
ふじみの市役所	私立児童館	大学3年生	8/13~26
文京区役所	真砂中央図書館	短大2年生	8/12~23
メモリード	アルカーサル迎賓館 (結婚式場)	大学2年生 大学2年生 短大1年生	8/8~21 8/8~21 8/8~21
ホテルオークラ	営業企画部	大学2年生 短大2年生	8/15~26 8/15~26
丸広百貨店	婦人細貨売場 リビング・寝具売場	大学2年生 大学3年生	8/1~12 8/1~21
ヤマハミュージッククリテイリング	ヤマハ銀座店	大学2年生 大学3年生 短大1年生 短大1年生	8/13~25 8/13~25 8/1~12 8/1~12
合計		14名	

《平成26年度》

受入先	研修部署	参加学年	研修期間
川越市役所	総務部職員課	大学2年生	8/11~22
	福祉部福祉推進課	大学2年生	8/11~22
ふじみ野市役所	市立東児童館	大学3年生	8/6~20
文京区役所	真砂中央図書館	短大2年生	8/11~22
ホテルオークラ	営業企画部	短大2年生	8/5~18
丸広百貨店	婦人細貨売場	大学2年生	8/3~15
	子供服・玩具売場	大学3年生	8/3~15
ヤマハミュージッククリテイリング	銀座店1Fポータル	大学2年生	8/3~14
		大学2年生	8/4~18
		短大1年生	8/9~23
		短大1年生	8/4~15
		短大1年生	8/7~21
		短大1年生	8/8~23
		短大1年生	8/10~28
KDDI研究所	研究G、営業企画G	大学2年生	8/4~15
合計		16名	

3. 卒業後の進路

(表4) 就職状況表

平成25年度卒業生就職状況

大学 卒業生 96名
(就職希望者) 64名

就職者	56	進学者	21	その他	19
-----	----	-----	----	-----	----

(内訳)

教員・臨採他	17	東邦大学院	7	アルバイト	10
				(内就職希望者)	⑥
音楽教室講師	10	アドバンスコース	7	就職未定	2
自宅教授	5	他大学・院	1	家事手伝い	4
公務員他	2	専門学校	4	進路未定	2
音楽療法士	3	留学他	2	帰国	1
一般企業	19				

就職率
就職希望者対比 87.5% 前年 84%

(卒業生対比 58.3% 44.2%)

短大 卒業生 25 名
(就職希望者) 7 名

就職者	5	進学者	9	その他	11
------------	----------	------------	----------	------------	-----------

(内訳)

音楽教室講師		大学編入	5	アルバイト	5
自宅教授		他大学		就職未定	2
自営	2	専門学校		進学未定	2
一般企業	3	アドバンスコース	4	社会人他	2

就職率

就職希望者対比 **71.4%** 前年 85.7%
(卒業生対比 20.0% 42.9%)

平成 26 年度卒業生就職状況

大学 卒業生 91 名
(就職希望者 53 名)

就職者	47	進学者	22	その他	22
------------	-----------	------------	-----------	------------	-----------

(内訳)

教員・保育他	11	東邦大学院	11	アルバイト	10
音楽教室講師	10	アドバンスコース	7	就職未定	6
自宅教授	2	他大学・院	1	進学未定	1
自営、研究員	5	専門学校	1	進路未定	5
公務員他	2	留学他	2		
一般企業	17				

	就職率		
就職希望者対比	88.7%	前年	87.5%
(卒業生対比	51.6%		58.3%)

短大 卒業生 31 名
(就職希望者 15 名)

就職者	13	進学者	10	その他	8
------------	-----------	------------	-----------	------------	----------

(内訳)	音楽教室講師	3	大学編入	3	アルバイト	4
	自宅教授		他大学	2	就職未定	2
	自営	1	専門学校	3	進路未定	2
	一般企業	9	アドバンスコース	2		

	就職率		
就職希望者対比	86.7%	前年	71.4%
(卒業生対比	41.9%		20.0%)

〔課題〕

音大生の就職先として期待される音楽業界の規模は、その社会での潜在的ニーズに相反して小さく、就職環境も回復がみられる他業界に比べて必ずしも好転しているとは言えない。特に、引続く子供の人口減少は多くの音大生が望む音楽教室の講師需要にも大きな影を落としており、こうした社会情勢に対応できる人材の育成が求められている。

本学は少人数制を特徴としていることから、キャリア支援においても、ほとんどの学生の顔が見えるきめ細かい個別対応を行うことが可能となっている。平成 23 年からのキャリア教育のスタート以来、学生在籍数の減少の中でもインターンシップの参加学生は増加傾向にあり(表 3)、就職相談などでキャリア支援センターを訪れる学生数も増加傾向にある。特に、短期間で進路決定を迫られる短期大学の来室者数は大きな伸びを見せている。

(表 1)結果として意識の高まりが就職率の若干の向上にも反映していると考えられる(表 4)。

今後取り組むべき事項

1. 教育改革の推進

平成 26 年度には、学長を長とした「教育改革推進会議」及び「教学 I R 推進委員会」を新たに設置したほか、FD についてもこれまでの FD プロジェクトを充実させ新たに「FD 委員会」を設置するなど、大学の教育方針、教育課程、教育内容・方法等の改善について恒常的に取り組むこととした。今後これらの組織を軸にさらに教育改革に取り組んで行く。

現在具体的な検討に入っていることとしては、我国の高等教育機関がおかれた状況についての研修会の実施、質の高い教育を行っている優秀な教員に対する顕彰制度の創設等がある。また、専任教員にとどまらず非常勤講師を含めた全ての教員が、学生に対してよりきめ細かい指導を行うことができるよう、オフィスアワーの制度を整備することも検討していく。

入学試験については、一般入試、推薦入試、AO 入試に加え、社会人入試など受験生のニーズに沿った様々な形態で行っているところであるが、これに加えて、オーケストラ等を育て強化することを目的に、オーケストラを構成する諸楽器の専攻生に対する特待入学試験制度について検討していく。

2. 社会連携について

本学の社会連携への取り組みは既に長年の実績があるが、これをさらに発展させていくために、本学独自の学修課程として整備していくことを検討している。地域社会において、大学・短期大学に期待されている役割は非常に大きく、また、学生たちにとっても大学での学びを通じて地域社会の発展に寄与することは、成果を実感し学ぶ意欲を高める貴重な経験となる。学修課程の実際的な価値や単位の国際通用性について研究しながら、本学独自の社会連携をさらに発展させていくための学修課程を検討する。

また、音楽以外の文化やスポーツの分野との幅広い連携も視野に、さまざまな組織との相互協力協定の締結も検討していく。

3. キャリア支援について

本学は音楽大学・短期大学であることから、卒業後も音楽を続け、音楽に関連した仕事に就きたいと希望する学生が多い。しかし、音楽を演奏することのみで生計を維持してい

くことは至難であり、また音楽業界の規模はその人気に比べて大きくはなく即戦力が求められる。卒業後もアルバイト等をしながら音楽の道を目指す者もあり、就職率としては一般大学と比較すると数字上低くなる傾向にある。また、在学中音楽の学習に打ち込むことにより、一般にいうところの「就活」から意図的に距離を置いている学生もいる。

音楽を学ぶことは人間としての成長につながる一方、音楽人として自立するには社会人としての力が一層求められる。本学ではこの観点から、キャリア教育に関する学修課程を整備してきた。

今後も初年次からのキャリア教育としての「東邦スタンダード」「キャリアデザイン」の一層の充実をはかるとともに、少人数制を活かして個別対応による個々の学生の将来の方向性の早期決定により、幅広く社会に対応できる心豊かな音楽人を育てていく。学生の進路については全学的な問題として教職員全員が関心を持ち、演奏活動だけに限定することなく、さまざまな形で自立できる音楽人の育成のための学修課程の構築を一層推進していく。

[編集]

大学自己点検・評価部会

高橋 幸雄 (委員長)
遠山菜穂美 (副委員長)
春日 洋子
粕谷 宏美
中島 裕紀
山崎 明美
二俣 泉
馬場 存

短期大学自己点検・評価部会

井上 淳司 (委員長)
高橋 幸雄 (副委員長)
市山 恵一
川端 敏朗
國谷 尊之
小林 律子
岩間 丈正

学校法人 三室戸学園
『東邦音楽大学・東邦音楽短期大学の現状と課題』
【自己点検・自己評価報告書】第8号

編集：自己点検・自己評価特別検討委員会
発行日：平成27年3月
発行：東邦音楽大学・東邦音楽短期大学

〒112-0012
東京都文京区大塚4-46-9
TEL:03-3946-9667
FAX:03-3946-2455
E-mail:info@toho-music.ac.jp